

新年(一月)・春(二月〜四月)

新年・正月・初春
元日・元旦・三が
日・松の内

初詣・破魔矢

節分・豆まき・初
午・年の豆

雛・雛祭り

月名(旧暦名)：睦月、一月

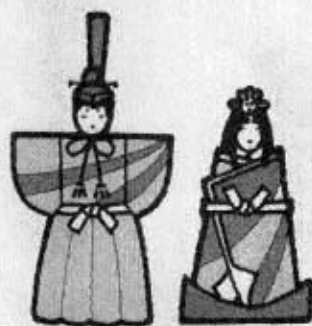
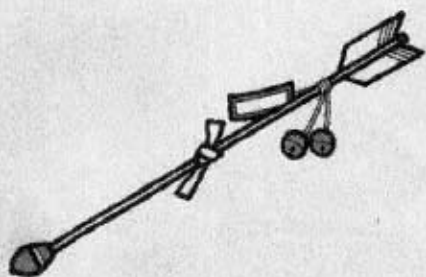
一年の初めの月を「新年・正月・新
春」といい、一月一日を「元日」、元
日の朝を「元旦」といい、一日から
三日までを「三が日」あるいは「松の
内」といいます。

元日に神社仏閣にお参りすることを
「初詣」といい、そこで買う矢のこ
とを「破魔矢」といいます。

立春の前夜で、二月三日、四日ごろ
に当たり、新しい春を迎え、幸せを
願い、豆をまく風習をいいます。
三月三日、桃の節句。

お正月ししし笛ひびく母の里

北川 裕大



年賀・賀状

年玉・初売り・
書初・稽古始

門松・しめ飾り

羽つき・双六・風
あけ・歌留多・こま
獅子舞

バレンタインデー

ホワイトデー

卒業・サイン帳
入学

「三が日」に親戚や知人などがお互いに
訪問し合い、挨拶することをいいます。
お正月の楽しみの一つですね。

新年、門や玄関、床の間、車などに
お飾りをします。
お正月の遊びです。

お正月の縁起物で、門付けといい、
玄関(門)の前で舞ってもらうところ
もあります。

二月十四日。女の子が男の子にチョコ
を贈りますが、本当の意味は、「セン
トバレンタイン」が殉教された日です。
三月十四日。バレンタインデーのお
返しとして男の子が女の子に、クッ
キーなどを贈ります。

卒業の記念に先生や友達にことばを
書いてもらいます。一生の記念にな
りますね。

先生を見おくりに行く春の雨

波多 美幸



燕つばき

蝶ちょう・白蝶・黄蝶・

初蝶

梅（紅梅・白梅）

桜

燕は、春来て秋帰る渡り鳥。子育てする姿がいじらしいです

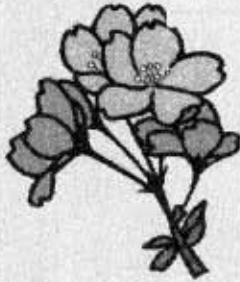
花の上を飛びかう姿は、春らしいです

桜と並んでなじみが深く、早春他の花に先がけて咲くので、「花の兄」と呼ばれています。梅という実ではなく、花をさします。

日本の代表的な木で、国花にも指定されています。満開時も散り際もとてもきれいです。俳句では、花といっただけで桜を意味します。

菜の花やだんだん海が狭くなる

石川 育美



初日・初日の出

春風

春一番

風光る

元旦の日の出のことをいいます。

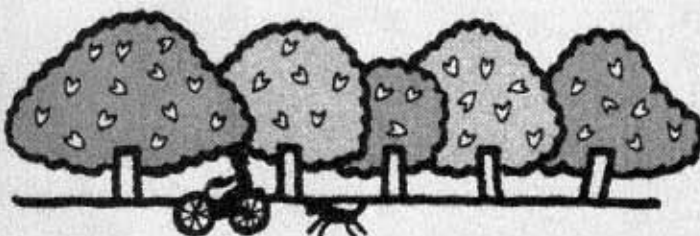
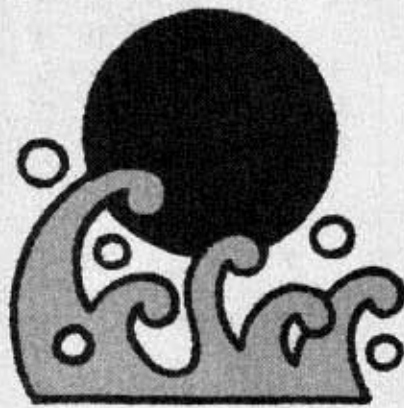
春に吹く暖かく柔らかな風。新芽が吹き出しそうです

春になって最初に吹く強い南風のことです。

春も日光が強くなり、夏に近づくと、吹く風が鋭く光るように感じられます。

春一番旅出て一つしあわせが

杉田 紋佳



夏(五月〜七月)

入梅・梅雨・梅雨
明け

夏休み

立春から百三十五日目、六月十一、二日ごろ。梅雨に入ることはいいます。一か月近くじめじめとした雨の季節が梅雨です。入梅後三十日の七月十日ごろ、梅雨が明けます。待ちに待った七月二十日から八月三十一日までの休み。普段できない体験を多くしてくださいね。(一日一句、俳句日記をつけてみましょう。)

風鈴の窓先生に手紙出す

別所奈織



夏登山知らぬ誰かと友達に

東未裕

端午の日・子ども
の日・武者人形・
鯉のぼり・吹き流
し・粽・菖蒲湯
山開き・海開き・
キャンプ・ボート
登山・プール・海
水浴・水遊び
みつ豆・氷水・サ
イダー・アイスク
リーム・ソーダ
水・ラムネ

五月五日は端午の節句です。鯉のぼりや吹き流しをあげ、武者人形を飾り、子どもたちの健康と成長を願います。夜は、菖蒲湯につかります。自然の中で思う存分楽しみましょう。楽しい遊びがいっぱいです。

暑いときには、冷たい物がほしくなりますね。
(他にどのような食べ物があるでしょう。さがしてみましよう。)



天道虫・兜虫・くわがたむし・蟻・蟻地獄
 火取り虫・蟬・蚊
 おけら

薔薇・牡丹・桐の花・けしの花・柿若葉・卯の花・麦花菖蒲・かきつばた・蜜柑の花・栗の花・くちなしの花・紫陽花・向日葵・浜木綿・睡蓮・すもも松葉牡丹・百日草はまなす

火取り虫は、灯火に集まってくる虫。蚊は、血を吸うのが嫌です。
 (他にも夏の虫や動物をさがしてみましよう。)

牡丹は美しい大型の花です。柿の若葉は、つやつやした葉で、時に光って見えます。路(ふき)は、ほろ苦く香りがいいので食用にします。五月ごろ白い花を小枝にびっしりつける卯の花、旧暦四月を卯月というのは、ここからきています。独特の青臭い匂いがするのが栗の花です。

さるすべり雨に紅ましにけり

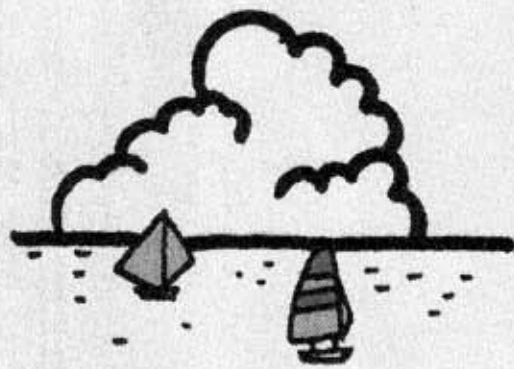
岡本恵里



虹
 夕焼け



夕立の後、空に大きくかかる姿が美しいですね。
 夕焼けの次の日は良く晴れるそうです。



秋（八月～十月）

お月見・中秋の名月

十五夜

秋分の日

体育の日

旧暦の八月十五日をさします。団子とススキを供える風習もあります。

秋彼岸の真ん中（お中日）。

体育の日（十月十日）は、一九六四年に日本（東京）で初めてオリンピックが開催されたことを記念して作られた休日です。オリンピックにちなんで、各地でスポーツ大会などが催されます。

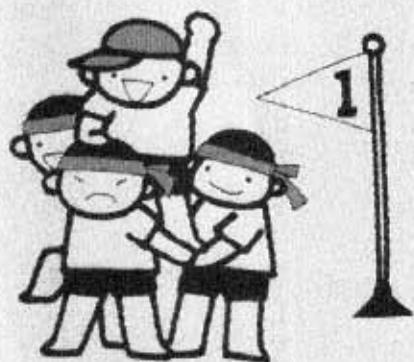
高校野球は、真夏のイメージですが、開催が八月ということで「秋」に含まれます。

運動会

甲子園（高校野球）

すすきのほくしゃみしそうなお月さま

東山 奈央



稲刈り・新米・栗ご飯

実りの秋、青々としていた田圃も黄色に変わり、稲穂も重そうに頭垂れます。新米の季節。お米が一味変わります。栗入りご飯やおこわがまた格別ですね。



虫時雨

こおろぎ・キリギリス

赤とんぼ

木の実・イチジク
ぶどう・あけび・

クルミ
柚・芋・銀杏・

南瓜

落ち穂・大豆・葛
秋茄子・とうもろ

こしきのこ・稲・

栗・桃の実・梨・
レモン・柿椎の実

・どんぐり

落花生・スイカ
もみじ

虫たちの大合奏。

童謡「虫の声」に出てくるような虫たち。彼らの声を聞くと確実に秋が近づいていることがわかります。

夏場は高地で過ごし、秋になると里におりてきます。

(秋になるとよく見る虫で俳句を作るのもいいですね。)

木の実やキノコ類がおいしい季節。まさに「実りの秋」ということばがにこみます。

「芋」は主に「里芋」をさします。

お月見に供えたりする里芋の皮をむかずゆでたもの「衣被ぎ」も秋の季語です。端を切り落とし指で絞り出すようにして塩(辛子醤油も可)をつけて食べます。

スイカも意外なところで秋なんです。俳句の世界にはこういったことがたくさんあります。



赤とんぼ父のかたにも止りけり

大久保綾香

星・月
天の川・月・月夜
流れ星

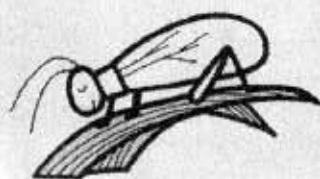
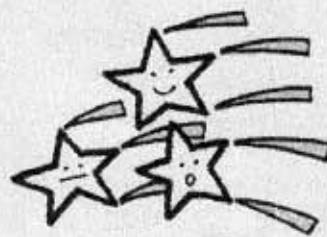
台風・露・霧・秋
の雨・秋晴れ・秋
の空・鱸雲

秋は、空気が澄んでよく見えるようになつてきます。月は、名月、無月、十五夜、十六夜など様々な表現がされます。

空を仰げば、いつしか空が高く、入道雲に代わって鱸雲が横たわっていることがあります。心なしか暑さが和らぐ気がします。

星涼し父と観察どこまでも

蜂須賀信三



寄せ鍋なべ

おでん・雑炊ぞうすい

湯豆腐

毛糸編む

手袋・セーター・

マフラー・綿入れ

コート

毛皮

ダウン

ブーツ

スキー・スケート

スノーボード

寒稽古かんげいこ

雪かき

雪だるま

雪の窓けいとこのぼうしが笑ってる

菊山 裕佳子



寒いときは鍋料理が一番。鍋から上
がる湯気、熱いものをふうふういい
ながら食べる、冬の食卓の姿です。
冬、セーターやマフラー、手袋、帽
子といったものを編む姿は、心まで
温まる気がしますね。
地域によって「はんでん」「ちゃん
ちゃんこ」というところもあります。
ダウン(羽毛)を使ったジャケット
やベスト。
皮の長靴ながぐつです。
冬の代表的なスポーツです。
スノーボードのことで、九〇年代後
半頃からはやりだしました。
寒風吹きすさぶ中、行われる柔道な
ど武道の練習です。
雪が降るとなぜか楽しくなって駆け
回りたくなりますが、遊んでばかり
もいられません。生活上、除雪作業は
大切な仕事です。除雪した雪を集め
て、かまくら、雪だるまを作ります。

七五三の祝

冬休み

年の暮れ

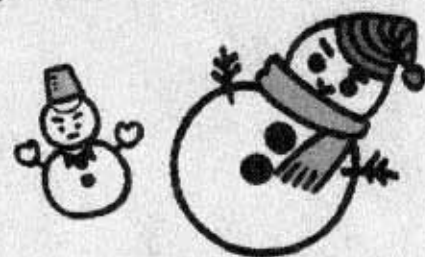
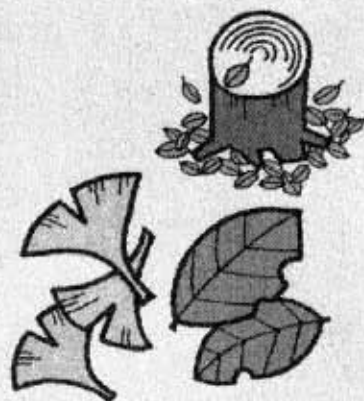
クリスマス

サンタクロース

紅白歌合戦



十一月十五日に、子どもの成長を祝
います。
年末・年始にかけての学校の長いお
休み。クリスマス、大晦日おおみそか、お正月、お
年玉といった楽しみがいっぱいあり
ます。
クリスマスの前夜(イヴ)に子ども
たちにプレゼントを運んでくれると
いう伝説の人物。
(他にもクリスマスにかかわる言葉
を季語にして俳句を作るのもいいで
しょう。)
大晦日恒例こうれいのテレビ番組です。この
番組が終わるとまもなく新年になり
ます。



冬眠

落ち葉

蜜柑

クマなどの動物が、実りの秋のうち
にたくさん食べ、皮下脂肪をいっば
いつけて、春が来るまで穴蔵で眠り、
冬を越します。
冬は植物たちが、春を迎える準備を
します。見た目はさびしいですが、
古くなった葉は落ちても、春に新芽
を出す準備をします。
秋ごろから出荷されますが、冬の蜜
柑が一番甘くておいしいです。炬燵
に蜜柑、日本の冬には欠かせません。

落ち葉見てパッチワークで着てみたい

田矢 早保

木枯らし・北風

霜柱
雪
霰
霰

冬の風にもいろいろありますが、どれ
も冷たく身にしみるものばかりです。
雹よりは柔らかい氷混じりの雪(氷雨)。
雪まじりの雨。

土中の水分が凍てつき、表面を持ち
あげる現象。最近、アスファルト
やコンクリートに覆われて、霜をふ
む体験ができにくくなりました。

